

校種
中・高・特中・特高
受験番号

⑧ 中学校・高等学校 国語 解答例



(八)			(七)			(六)		(五)				(四)			(三)	(二)	(一)					
得	指	ヒ ^(例)	る	社	後 ^(例)	道	人 ^(例)	振	い	う	利 ^(例)	こ	棄	利 ^(例)	総 画 数	端的に	④	①				
て	示	ト	こ	会	悔	徳	間	る	う	メ	他	と	し	他			十三	慎重	勘案			
い	す	だ	と	か	と	感	と	舞	種	カ	的	。	て	の								
る	る	け	。	ら	い	情	下	い	は	二	な		ま	意	画							
こ	機	が		逸	う	で	等	を	血	ズ	個		で	味			熟語		⑤		②	
と	能	一		脱	振	あ	動	行	縁	ム	体		他	を								(例)裏声
を	を	超		し	る	る	物	う	関	が	は		者	、	(例)内裏など					う		
伝	有	自		た	舞	こ	を	こ	係	あ	定		の	自					⑥		③	
え	し	我		行	い	と	分	と	に	る	義		た	己								
た	、	一		為	が	。	け	。	な	に	上		め	利								
か	後	と		を	で		る		い	も	、		に	益								
っ	悔	い		抑	き		最		他	か	適		尽	の								
た	と	う		制	る		良		者	か	応		力	追								
か	い	一		す	こ		で		に	わ	度		す	求	(例)内裏など		⑥	③				
ら	う	理		る	と		最		ま	ら	を		る	を								
。	感	想		こ	に		大		で	ず	下		こ	わ								
	情	の		と	よ		の		利	、	げ		と	ざ								
	を	私		が	っ		違		他	ヒ	る		と	わ								
	も	一		で	て		い		的	ト	と		し	ざ								
	ち	を		き	、		は		な	と	い		た	放	1	1	1	1				
															1		1	1				
															1		1	1				

6

6

6

6

6

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

校種	中・高・特中・特高	受験番号	
----	-----------	------	--

⑧ 中学校・高等学校 国 語 解答例



※ 何も記入しないこと

(一)		(二)		(三)	(四)	(五)	(六)
あ	い	お	き	(例) だだっ広く荒れた所で、庭木は今まで越えてきた山々に劣らないほど恐ろしげな深い山の木のようにうっそうとして、都のうちと思われない有様の所。	(例) 母が衛門の命婦という人を訪ね、手紙を出したところ、衛門の命婦が宮様のお手もとのものを頂戴したといって、みごとな冊子類を硯箱の蓋に入れて贈ってくれたため、手に入れることができた。	誰が私のような子ども相手に、物語を捜してきて見せてくれる人などあろう。	(例) 継母が父と離別してよそへ移ることになったとき、「この梅の花が咲く頃はきつと参りましょう」と言い残して出て行つたので、梅の花が咲く頃に恋しく懐かしい継母と会うことができると考えているから。
ヤ行下二段活用の動詞「見ゆ」の未然形	過去の助動詞「き」の連体形	夫婦仲	音沙汰				
1	1	1	1	4	5	2	5

校種	中・高・特中・特高	受験番号	
----	-----------	------	--

⑧ 中学校・高等学校 国 語 解答例



(一)		(二)	(三)	(四)	(五)
c	a	ア	(例) 扱はこの無邪気な出迎えぶりに言葉厚く感謝した。	何日	(例) 扱は児童らにここにまた戻って来る日にちを数えて告げたが、 戻って来ると約束した期日に一日だけ早く、 児童たちとの約束にそむくのを恐れたから。
ゆえに	おいて				
d	b				
すなわち	より				

※ 何も記入しないこと

1	1
1	1

校種	中・高・特中・特高	受験番号	
----	-----------	------	--

⑧ 中学校・高等学校 国 語 解答例

四

(中学校受験者のみ解答すること)

※ 何も記入しないこと

(一)		(二)		(三)
d	a	(例) 物事の様子や場面、登場人物の行動や心情などを、読み手が言葉を通して具体的に想像できるように描いたものこと。		(例) 「第一学年」(1)オの「自分の考えを確かなものにする」こと」では、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考え理解したことを、他者に説明し、また他者の考えやその根拠などを知り振り返ることで、自分の考えを確かなものにすることを指導する。
こ	さ			
e	b			
す	せ			
	c			「第二学年」(1)オの「自分の考えを広げたり深めたりすること」では、文章を読んで理解したことや考えたことを、関連する知識や経験を想起して結び付けることによって一層具体的に明確なものにしていくことが重要であり、その上で他者の考えやその根拠、考えの道筋などを知り、共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりすることで、物事に対する新たな視点をもつことを指導する。
	い			
2	2	4	6	
2	2			
2	2			

校種	中・高・特中・特高	受験番号	
----	-----------	------	--

⑧ 中学校・高等学校 国語 解答例

五

(高等学校受験者のみ解答すること)

(一)	
d	a
せ	い
e	b
か	う
	c
	き

22

22

22

※何も記入しないこと

(二)
(例) その目的が言語表現としてどのように実現されているか、その言語表現が社会生活などにおける目的の達成のために実際にどのような機能することが期待されているか、などの視点に立って読んでいくことが求められている。

4

(三)
(例) 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に示した資質・能力がバランスよく育成されることを重視し、教材を単に文章や作品といった意味にとどめることなく、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることができるよう、単元などにおける具体的な学習の手立てや方向性も併せて示したものとして考えていくことが大切である。

6